

1. 教育方針と重点目標

学校教育目標		(1) 工業を中心とする基礎的、実践的な教育（ものづくりを中心とした体験学習）を通して、工業人としての自覚を持ち、その使命と責任を全うできる実践力のある人間を育成する。 (2) 人間としてお互いの人格を尊重し、明るく、楽しく、いじめや体罰のない、安心・安全な学校づくりを目指す。 (3) 自主活動（生徒会活動・ボランティア活動等）を通じて、自主・自立の精神を鍛え、健康の維持と体力の増進を図る。 (4) 地域との連携を深め、開かれた学校づくりを目指す。
重点目標	【長期目標】	地域に根ざした工業の専門高校として、地域産業の中核を担える知識と技術と行動力を持つ人材育成に努める。
	【中期的目標】	(1) 確かな技能を基に、自ら考え開発する姿勢を養う。 (2) 円滑な人間関係が築けるよう、コミュニケーション力を高める。 (3) 信頼される人材として義務と責任を果たす。 (4) 実践的知識・経験を深めるために企業連携、地域連携を発展させる。
重点年度目標	1 基礎学力の向上と探求的な学びの定着を図る。 ・進路意識を高め将来設計を考えさせるキャリア教育を充実させる。 2 生徒に活躍の場を与え、やる気と自信、達成感と成就感を持たせる。 ・生徒会、部活動、地域貢献をととして自己形成を図り、コミュニケーション能力を高める。 3 すべての子どもの学びの保障を推進し、いじめ等のない明るく開かれた学校を目指す。 4 体力の向上とスポーツの振興、特に部活動の活性化を目指す。	
総合評価	昨年度よりポストコロナの学校生活として多くの分掌で行事等の見直しを図り、生徒一人一人が安心・安全な学校を送ることができるように職員全体が共通認識を持って協力することができた。また、生徒育成方針の柱である「ものづくりを通した人づくり」に向け授業や課外活動等に取り組みむことができた。	

2. 自己評価

(1) 教育活動領域における重点目標と評価

				＜評価 A:達成 B:概ね良い C:不十分＞	
対象	担当部署	今年度の重点目標	評価の観点	評価	成果と課題
教育課程	教育課程委員会	円滑な科目選択のための計画・運営	① 生徒がスムーズに科目選択するための計説明会等の実施	A	各科目の授業内容等について、説明資料の配布や教科ごとの説明を実施した後に全体説明会を行うことで、丁寧に科目選択を進めることができた。時間割編成上の運用面で支障がないか今後も研究と検討が必要である。
			② 生徒の進路・実態に即した科目選択		
学習指導	学習特活委員会	(1) 授業実践の改善促進	公開授業等をとおした授業改善の実施	B	数学科の研究事業（小中高）を通して、授業改善の方法について多くの先生からの意見を聞くことができた。
		(2) 外部教育力の積極的活用	社会人講師等による授業実践	B	12月に1年生を対象にしたうみがめプロジェクト(駒ヶ根市と連携)で、駒ヶ根市内の企業見学を行った。他学年についても、社会人講師等を招く機会を設けられるようにしたい。
		(3) LHRの計画的・実践的実施の促進	円滑なLHR運営の支援	B	LHRに行事等が入りLHRの時間を確保できない日もあった。今後も他の係や委員会と協力して時間確保・内容の充実を図っていきたい。
		(4) 学力向上の推進	学力向上・資格取得のサポートとその評価	B	進路係とも協力し、学期の初めに行う実力テストの前に学習強化期間を設け、朝の15分間を学習の時間にあてた。今後も学習時間の確保・学力向上に取り組みたい。
生徒指導	生徒指導係	(1) 生徒理解に努め、積極的な生徒指導の推進を図る	① 生徒個別面談・家庭訪問 ② 係・学年を中心にした生徒指導	A	問題行動発生時は職員間の連携を素早く取ることができ、スピード感がある対応ができた。 課題：特性のある生徒への生徒指導の在り方・対応。
		(2) 基本的な生活習慣の確立により、社会道德の育成を図る	① 通学路指導 ② 遅刻・中抜け指導	A	通学路指導を実施した。昨年度よりも学校が示している通学路を使用する生徒が多く、指導の成果が表れた。来年度も風紀委員会と連携しながら引き続き実施したい。
		(3) 自主性を育み、意欲的かつ計画的な生活の展開を図る	① 全校集会・学年集会での啓蒙 ② 「生活だより」の発行	B	終業式での講話はその時に起こっている話題を中心に話ができた。係からの通信は予定通り年3回発行した。引き続き発行していく。
		(4) 交通安全指導	① 交通安全講話の実施 ② 自転車・バイク車両点検 ③ バイク安全運転技術講習会の実施 ④ 通学路交通安全指導 ⑤ 自転車用ヘルメット着用の働きかけ	B	自転車乗車時のヘルメット着用の重要性を中心に講話をしていただくように駒ヶ根警察署に講師を依頼し実施した。ヘルメット着用調査と自転車点検を年2回実施した。夏季は暑さのためヘルメット着用率が下がる傾向があり、それが課題である。 バイク許可者には日程を調整し講習会を実施。無事故であった。
	いじめ対策委員会	いじめに関する調査	① いじめに対するアンケートの実施 ② クラス担任との連携	A	いじめを早期発見することや生徒の実態をつかむために生活アンケートを実施した。大きな問題はなかったが、悩み（進路・人間関係など）を抱える生徒がいて、保護者懇談や担任と面談をするなどして対応した。
生徒会活動	生徒会係	(1) 生徒による自治の実現 生徒会行事の計画・立案・準備・運営	① 生徒によるマナーの向上 ② 生徒の自主性を活かした行事の運営の手助け ③ クラブ活動の活性化	A	執行部を中心に、クラスマッチや駒工祭など各生徒会行事の企画・運営に責任をもって主体的に取り組む姿が見られた。特に駒工祭では、クラスやクラブ等各団体が工夫しながら展示・発表等に臨む事ができた。
		(2) 校内外の美化	① 通常清掃・大掃除・学校作業への取り組み ② 通学路・伊那福岡駅広場の清掃	A	美化委員・総務委員を中心にゴミの分別を呼びかけた。また、執行部を中心に通学路清掃を月1回程度行い、学校周辺の環境整備に努めることができた。
進路指導	進路係	(1) 適性の発見に導く	① 進路ノートの作成 ② 講演会・説明会の企画運営	A	①毎年2年生の5月に進路ノートを配布し、進路指導に役立てている。 ②3年生は5月に就職希望者は上伊那産業視察（上伊那の企業）、進学希望者は本校でライセンスアカデミー主催の進学ガイダンスを実施した。また、志望理由や面接練習の講演会等を行った。1月には1年生を対象に進路講演会を企画し、セイコーエプソン(株)の講師の方々に働くことや高校生活の過ごし方などについて講演をしていただいた。2年生は1月に就職希望者は上伊那高校内企業説明会（いなっせ）、進学希望者はライセンスアカデミー主催の進学説明会を実施した。2月には就職希望者はTSUNAGU企業勉強会（フラワーパレス）、進学希望者は本校でライセンスアカデミー主催の進学ガイダンスに参加した。進路実現に向けての取組をスタートすることができた。
		(2) 自己の確立に導く	① 進路通信の発行 ② 学力向上策の提示と充実 ③ 進路情報の提供 ④ 就業体験の企画運営	B	①進路通信は定期的な発行を計画したが、思うように発行できなかった。いろいろな進路に関わる情報発信をするツールとして活用できるようにしていきたい。 ②学力向上策の一環として、学習特活委員会と連携し、実力テストへの取組を充実させ、基礎学力の向上を図ることができている。継続していきたい。 ③GoogleClassroomを利用して、生徒に情報発信を行うことができた。 ④就業体験は、2年生101名が71社で体験を行った。多くの企業のご協力により、無事行うことができた。また、南信工科短期大学校に協力いただき、進学希望者への講義及び実験を数日間行うことができた。生徒にとってはとても貴重な機会とすることができた。
		(3) 進路の実現に導く	① 進路情報の集積・充実 ② 面接・論文指導の充実 ③ 学校・会社見学の充実 ④ 関連部署との連携 ⑤ 新規進路先の確保	A	①企業調べや見学の参考となるように企業ガイドブックを3年生の就職希望者と2年生全員に配布した。また、進学情報誌を購入し、学校調べ等に使用している。 ②就職・進学ともに面接指導や履歴書・小論文などの指導をしっかり行うことができた。就職支援員の方に面接指導をしていただき、外部の方の意見を聞くことができ、生徒には大いに参考になった。また、試験対策問題集も充実させ、就職・進学の試験に対応できるようにしている。 ③オープンキャンパスへ積極的に参加するように指導した。また、複数社企業見学を行うことができた。 ④就職については、ハローワークや上伊那職業安定協会などと協力して、企業説明会を開催するなど、連携を図りながら生徒の就職支援を行うことができた。 ⑤企業説明会や就業体験に新しい企業にも協力していただいた。新しい県外の企業への就職も内定した。
	教育相談支援教育委員会	(1) 生徒の心のケアのための支援	① 学年会・担任・各係との連携 ② スクールカウンセラー、家庭、関係諸団体との連携 ③ 生徒の変化に気づき、チームでの情報共有、必要な支援の実施。	A	該当の学年や担任の先生方と連絡を取り合いカウンセリングの計画や内容のフィードバックを行うことができた。今後は、カウンセリングを実施するにあたり、欠席してしまう教科や授業に偏りがいないよう調整も必要である。
		(2) 特別支援に関する情報の提供と研修	① 支援を必要とする生徒について、全職員で情報共有。 ② 様々な会で提供される情報や資料を共有することによる、理解の深化。	B	今年度より「アセス（学校環境適応感尺度）」を全クラスで実施したが、学校全体での活用方法を共有、定着をはかることができていない。次年度以降、校内の活用方法について検討していきたいと思う。

